

# 茗荷村見聞記

（カラー作品）

■山田典吾みよとうが製作・脚本・監督

■田村三もん原作（北大路書房版）

優しさをありがとう。  
愛をありがとう。  
明るくユーモラスな茗荷村の人々の  
夢ある日々を描く涙と感動の名篇

- 長門裕之
- 山本圭
- 岡田裕介
- 渡辺篤史
- 殿山泰司
- 吉田日出子
- 二木てるみ
- 雪代敬子
- 林美智子
- 中島ゆたか
- 谷口香
- 阿部百合子
- 塩沢とき
- ケーシー高峰
- 横山あきお
- 大泉滉
- 三遊亭円之助
- 江戸家猫八
- 信欣三
- 桑山正一
- 左右田一平
- 矢野栄
- 梅津栄
- 椎名泰之

## 劇映画 茗荷村見聞図繪

みよがむらのくわいマップ

●この映画のシーンにてくる、ゆかりのある名所旧跡のイラスト・マップです。

ヘリコプター  
格納庫

やきもの屋

ガラス屋

西通り

西二丁目

竹屋

木地屋

かじ屋

修理

村役場

売店

車庫

西三丁目

桔葉屋

木工所

野水池

材木製材所

おりの屋

西四丁目

畜産地帯

うさぎ

くんにわとり

池

油屋

三八川

つげもの屋

シヤムかし

西五丁目

山

山の窓

車庫

東通り

東二丁目

ばげや

理髪店

つゆの家

研究所

東一丁目

東三丁目

玄米

二八川

いちぢく林

うめ林

山林

茶畑

栗林

天保寺

東四丁目

東五丁目

現代ぶろだくしょん  
東京都新宿区西新宿6-11-21 タワービル  
TEL 03(344)4001(代)



# 茗荷村

山田典吾 製作 脚本・監督  
田村一二 原作(北大路書房版)

## 見聞記

みょうがむらけんもんき  
〈カラー作品〉

日本PTA全国協議会特薦  
健全映画鑑賞会特薦  
日本映画ペンクラブ推薦



### 解説

美しい愛と優しさ、あたたかい心のふれあいと夢にみちた感動の珠玉メルヘン。昨年、「春男の翔んだ空」を放って、日本中の涙を誘った山田典吾が再び贈る話題の名篇です。

映画は、四十余年の長い歳月を精薄児教育ひとすじに歩んできた田村一二氏の同名原作を得て、ひとつの理想郷とも言うべき「茗荷村」を舞台に、そこに住む人々の愛と希望と明るさといった生活を活写します。

茗荷村——そこはある山間の地に息づく夢あるユートピア。公害もなく、人間関係の不調和も偏見もない村。ごく普通の老若男女と心身障害者たちが、一緒になってそれぞれに適した仕事について、その日その日を明るく生き、かつ幸せな未来を築いていると。物語は、その茗荷村を訪ねた田村先生の目に映る村と村民たちの、ひたむきな愛と優しさ、心のふれあいを通して、現代文明にも浸されない人間性が求める「夢」の大切さを問いかけます。

自らを愚者と任ずる茗荷村の住人たちが、あなたに贈る大きな感動、明日への希望。79年最高の映画詩です。スタッフは、「はだしのゲン」「春男の翔んだ空」に次いで、製作、脚本、監督を担当する山田典吾(昭和53年、文部大臣より特殊教育功労賞受賞)、原作は、昭和23

### 物語

美しい窓外の景色に見とれながら、暫くすると、山間の部落が目の前に素朴な姿を現わします。それがこれから私が訪門する「茗荷村」です。

私、田村一二は、この四十余年を精薄児教育ひとすじに生きてきましたが、今度、心身障害者たちが、ごく普通の老若男女と一緒に、それぞれ自分に適したことを仕事とし、ひとつの生活共同体をつくっている「茗荷村」の参観にやってきました。

茗荷村役場の村長さんの案内で、早速、村をまわることにしましたが、何と楽しいことに、禿頭の村長さんが、私のために馬車を用意してくれました。馭者の音やんと音吉は、鍛冶屋の鉄と同じ程度のチエおくれだそうですが、とても元気で明るいんです。

焼き物屋の江木さんは、いま重度の精薄児たちと共に、登窯を使って作品づくりに一生涯懸命。昼になったので、村の居酒屋「ほけ屋」に寄って昼食。出てくる料理は全部、村でつくったものばかり。醤油も味噌も手づくりで、私は久しぶりになつたの味になりました。それにしても道々いたるところに、ほけの花。そしてこの居酒屋も「ほけ屋」。そりやアこの村のものは、ほけばかりです。すな、ほけの花を村花にしたんですね、ワッハッハッハ!と村長の屈託のない返事です。

午後は竹籠あみの安さん、盆や碗などをつくる木地屋の御木本さん、木工場の松谷さんなどを廻り、手づくり現場を一巡。やがて、織りもの屋を訪ねた私は、思いがけないことにそこで指導員の檜原さんに再会しました。

もうずっと以前、若い時、私が石山学園の先生をしていた頃、檜山も先生として精薄の子等を指導していたのです。村のはずれに立っている風変わりな丸太小屋。これは枯葉の研究に忙しい古木さん夫婦の家です。古木老人は枯葉を樹脂で固めて、パン皿、チーズ皿、果物皿などを作っている人。東京や大阪で大評判、自然そのままの形や色がよろこばれて、よく売れるんだそうです。

美しい夕陽が山々を赤く染める頃、私は、「露の家」という宿に着きました。そこでもチエおくれの女の子が三人、一生懸命、女中さんとして働いていました。驚

いたことにこの宿の女主人の露木さんは、昔、京都滋野小学校の特別学級にいた宗雄クンの母親でした。思えば四十年前、自閉症の宗雄クンを教えていた頃、ある日、「お母さんを大事にしなよ、肩でも叩いてあげろ」と私が言うと、少年はありありと感情を表わしたのです。翌日、露木さんは学校に来て、私に感謝の合掌をしてくれました。私も合掌しました。その後、宗雄クンが亡くなってから、露木さんは保母になり、そしてこの茗荷村で働くようになったとのことです。

動くい麦ごはんの食事のあと、私は村の喫茶店「麦」に出かけました。この店の女主人花田さんは、昔、私と一緒に、「一麥寮」で、精神薄弱児の子供たちを見ていた人です。あの頃、私たちは、チエおくれの教育は根気くらべだ、と心からそう思いました。

翌朝、研究所の若い先生・春木さんが、私を迎えにきました。多忙な村長に代って、今日の私の案内人です。むろん音やんの馬車が村を廻ってくれます。最初に行った大きな漬物屋、ここでは農薬を使わないで作った大根や菜っ葉を、色粉や甘味剤を使わないで漬物を作り置す。次は松吉さん夫婦の「うどん屋」。それから消化装置や発電所の設備。老人ホーム地域、劇場などの文化施設。それから研究所へ。何処を廻っても、村の幸せを力づくつくりあげる姿勢が、本当に微笑ましいかぎりです。

その夜、研究所の所長・花竹さんの家に招かれた時、私を訪ねてきた娘さんがいました。「わたくし、ガンジの娘です」というその女性は、村の世話人の家の保母、石田桃江さんでした。ガンジ、と聞いて私はすぐに、あの終戦直後のことを思い出しました。その頃、浮浪児の養護に一生懸命だった私は、石田常吉という少年に、「ガンジ—自叙伝」を読ませたのですが、やがて常吉クンはすごく感動して、すっかり立直ってくれました。そして成人した常吉クンは、チエおくれの花江と結婚し、一人娘の桃江さんをもつたのでした。

それは感動深い対面でした。桃江さんの話によると、母の花江さんは、常吉クンの愛情あふれる教養で、やっとな読み書きができるようになったが、その後ガンで常吉クンが亡くなったのだそうでした。それからと言ふもの、花江さんは女手ひとつで桃江さんを育てるため懸命に働き、成人式のときは、晴れ着一式の贈り物。桃江さんは涙ながらに私に言いました。「私にとつてカアちゃんとは日本一の母でした。チエおくれだつて、どんな母親に負けない、素晴らしい心の持主でした」と。

こうした数々の心のふれあいを得た私は、村長以下素朴な村民たちの姿をしっかりと胸に刻んで、名残り惜しんで茗荷村をあとにしたのです。

**\*3月ロードショー**  
銀座4丁目和光ウラ通り 銀座文化1 (561) 0707  
伊勢丹斜め向い三越ならび 新宿京王地下 (356) 3518  
吉祥寺駅東口前 吉祥寺セントラル 0422 (48) 6521

■上映時間■銀座・吉祥寺 連日 10:35 12:45 2:55 5:05 7:15 新宿 日祝 10:05 平日 12:10 2:25 4:40 6:50  
●前売券1000円(当日 一般1300円・大学1200円・高校1100円の処)好評発売中!